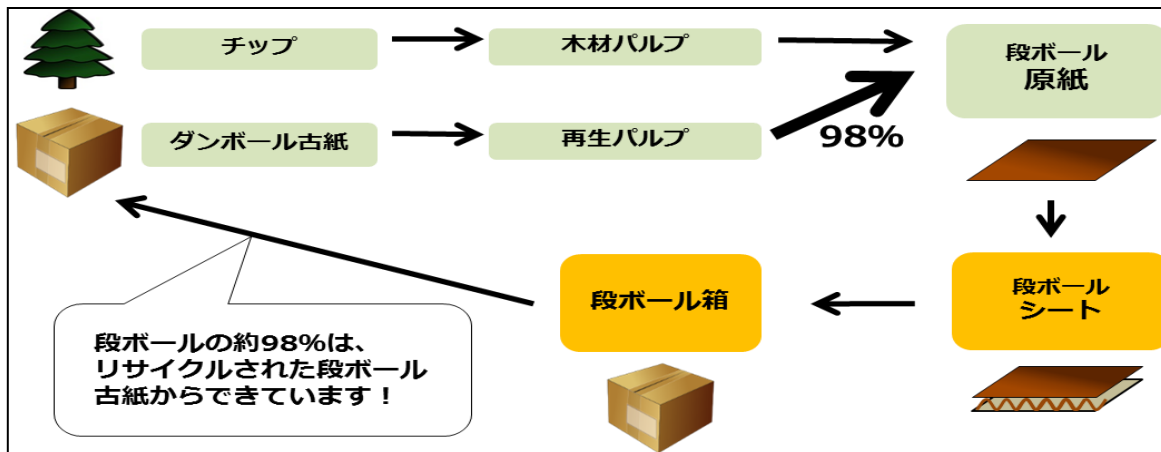


段ボール資材情勢



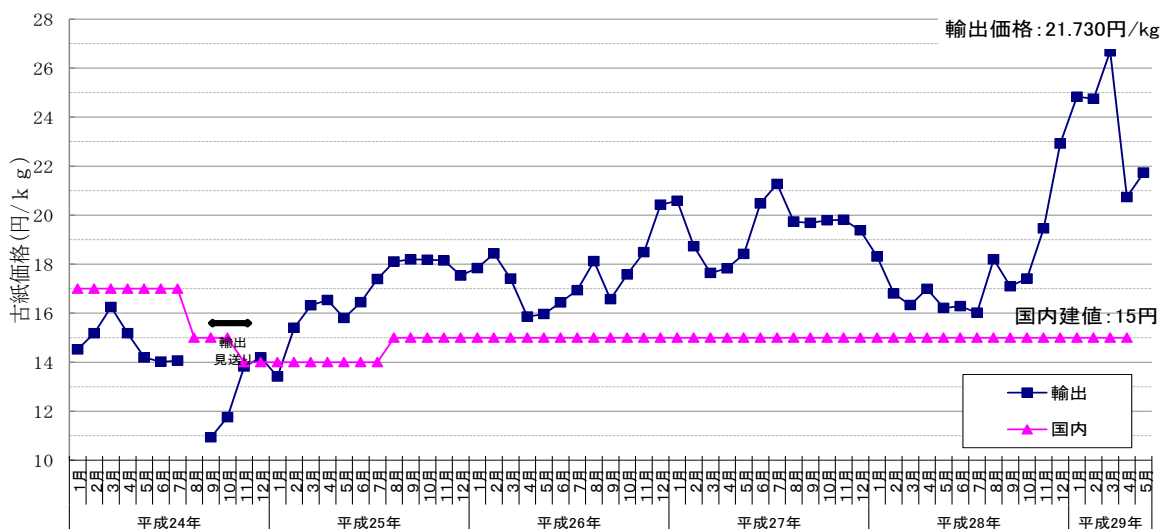
最新の統計・発表資料

- ・ 段ボール古紙については [こちら](#) （古紙再生促進センターHP）
- ・ 段ボール箱については [こちら](#) （全国段ボール工業組合連合会 HP）
- ・ その他統計資料については [こちら](#) （世界経済のネタ帳）

1. 段ボール原紙

(1) 原材料動向

ア. 輸出古紙価格(関東商組入札価格)



段ボール古紙の国内価格及び輸出価格推移

国内価格: 関東地区卸問屋店頭渡し価格(古紙再生促進センター)

輸出価格: 関東製紙原料直納商工組合から輸出商社への売り値

①5月積み価格:21.730円/kg(前月比+0.995円)

※4月積み価格が3月積み価格より大幅に下落(2割強)したため反動で買いが集まったと推定。

②4月積み価格:20.735円/kg

※中国での生産過多による一部原紙在庫に余剰が生じた。

③3月積み価格:26.686円/kg

※中国での段ボール需要増と円安が影響した。

④上記以前の状況について

平成28年2月以降は16円/kg台で推移していたが、8月に中国とベトナムの段ボール原紙増産により18円台に上昇した。9月積み価格は、中国での古紙需要鈍化のため下落したが、10月積み価格は、中国で稼働停止していた製紙工場が生産を再開したため17.413円/kgと再び上昇した。11月積み価格は、中国での段ボール需要の増加を理由に、19.456円/kgと値上がりした。12月以降は中国での古紙需要増や円安が影響し、20円台前半で推移した。

イ. 国内古紙買取価格

①国内古紙買取価格:15円/kg

※平成25年8月から15円/kgに引き上がり現在まで横ばいで推移している。原紙メーカーは輸出価格が高値で推移していることから、安定的に古紙を確保することを目的として実際には建値に数円加算して取引を行っている状況である。

ウ. チップ価格

①平成28年下期価格:145\$/1BDU(前期比8\$安) ※3半期連続の値下がり

【直近の価格動向】

※米国住宅着工件数が底堅く推移し住宅廃材の供給が多く、また、中国の経済減速の影響で引き合いが鈍かったと推定される。平成28年上期から引き続き米国の住宅需要が好調で、チップの供給が増加し、余剰感が強まっている。

平成28年:上期価格153\$/1BDU

平成27年:上期価格165\$/1BDU 下期価格164\$/1BDU

¹BDU: Bone-Dry Unitの略。海外チップ購入の売買単位。1BDU=絶乾重量で1,089kg。

エ. パルプ価格

①4月積み価格:740\$/t(前月比+3%)

※主産地の工場が定期修理に入り、供給が減少するとの観測から中国の製紙会社が購入量を増やした。

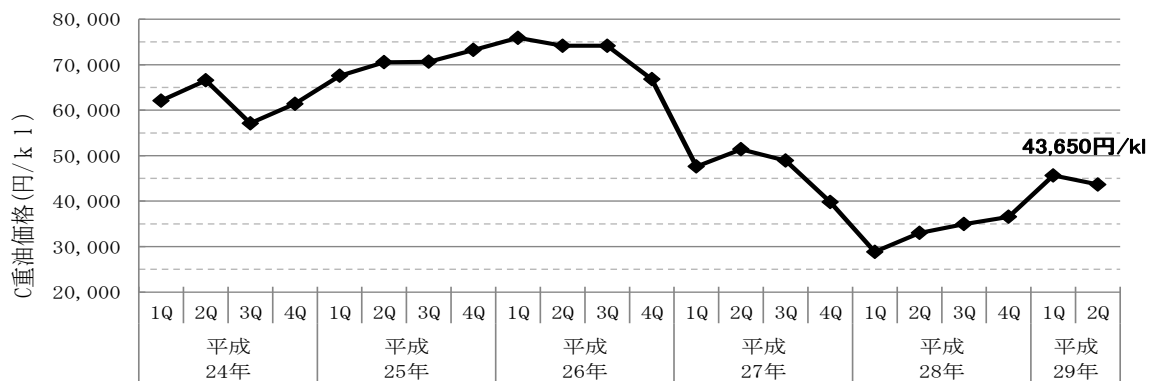
②3月積み価格:720\$/t

※産地の製造設備停止による供給減が見込まれ、中国では製紙会社がパルプ在庫の積み増しを続けた。

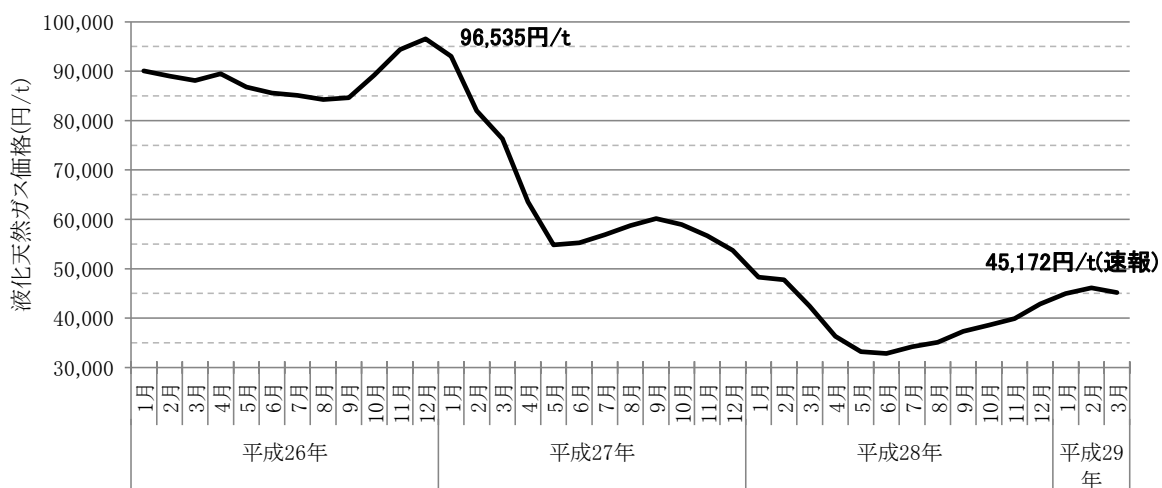
③上記以前の状況について

指標となる北米産針葉樹クラフトパルプ(N-BKP)価格は、平成27年7月積み価格から平成29年2月積み価格までは700\$/t前後で推移した。

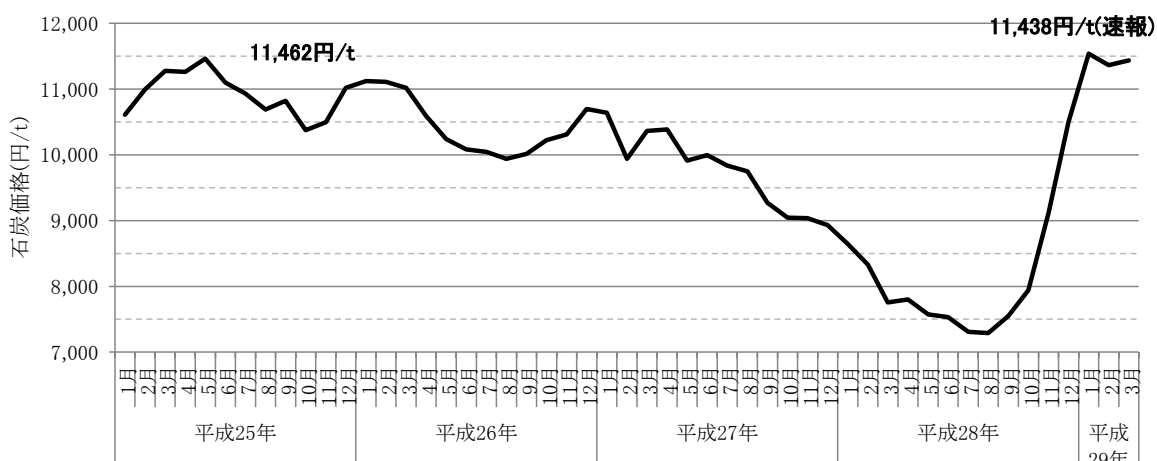
オ. C重油、天然ガス、石炭価格



一般産業大口需要家向けC重油価格の推移(硫黄3%)



液化天然ガスの価格推移



石炭(一般炭)輸入価格 (CIF:保険料・運賃込み)

(2) 価格動向

平成29年4月、日本製紙グループは古紙価格の高騰や物流コストの上昇、燃料高等を理由に、段ボール原紙の出荷価格を20%以上上げると発表した。同グループの日本東海インダストリアルペーパーサプライは平成29年5月21日出荷分からの値上げを打出し、専門商社や需要家と交渉に入る。

丸紅グループの中芯メーカーである興亜工業も、日本製紙グループと同様に、平成29年5月21日出荷分から段ボール原紙の出荷価格を20%以上値上げする方針を固めた。今後も他社に動きが広がる可能性がある。

2. 段ボール

(1) 需給動向

①平成29年1～2月貼合生産量(確定):2,080百万m²(前年比:102.3%)

②平成29年1～2月製函投入量(確定):1,491百万m²(前年比:103.4%)

※平成29年は、消費者の節約志向による中食の増加や消費単位の細分化等の理由から前年比1%強の伸びが推測される。また近年、好調である「通販・宅配・引越し」は引続きネット販売を中心に増加する見込である。

段ボール生産・出荷・消費実績推移表(確定) 【単位:百万m²、%】

年	貼合生産量 A		出荷量 B		製函投入量 C		製函投入比率 C/A×100
	生産量	前年比	販売量	前年比	投入量	前年比	
19年	13,974	100.8	4,722	97.6	9,340	102.5	66.8
20年	13,563	97.1	4,469	83.9	9,136	97.8	67.4
21年	12,623	93.1	3,914	87.6	8,707	95.3	69.0
22年	13,066	103.5	4,068	103.9	8,951	102.8	68.5
23年	13,141	100.6	4,005	98.4	9,067	101.4	69.0
24年	13,267	101.0	4,014	100.2	9,183	101.3	69.2
25年	13,459	101.4	4,011	99.8	9,378	102.1	70.0
26年	13,626	101.2	3,973	99.1	9,576	102	70.2
27年	13,739	100.8	3,887	97.8	9,756	101.8	71.0
28年	13,973	101.7	3,838	98.7	10,030	102.8	71.8
29年1～2月	2,080	102.3	577	100.3	1,491	103.4	71.7

③平成29年1～2月需要部門別投入量(確定):1,491百万m²(前年比103.4%)

④平成29年1～2月青果物用投入量(確定):163百万m²(前年比103.4%)

※平成28年の需要部門別投入量については、全部門の合計は10,030百万m²(前年比102.8%)と前年を上回った。また、青果物部門は、1,083百万m²(前年比98.4%)と前年比減となった。

(2) 価格動向

ア. 平成29年4月、日本製紙グループと丸紅グループの興亜工業が相次いで段ボール原紙の値上げを発表し、段ボールメーカー各社との交渉に入っている。

イ. 段ボールメーカーはこの発表に難色を示しており、現在他の原紙メーカー(王子グループ、レンゴグループ)が値上げを発表していないことから、値上げが浸透するかは不透明である。

以上